

米原市総合計画 第3回審議会「快適・協働」部会発言要旨

日時：平成18年11月22日(水)

9:30～12:00

場所：米原公民館 3B

1. あいさつ

- 第2回審議会から時間が空いたが、8月10日の審議会全体会で意見のあったとおり、職員ワークショップの検討結果が出るのを待ち、それを資料として議論していくことを、審議会部会長会議(8月29日)で決定させていただいた。
その間に市民アンケート、職員ワークショップを行ってきたので、その結果を報告する。
- 今後部会ではこれらの成果に基づき審議を進めていただきたいが、スケジュールに遅れが生じている。12月中の部会審議の進行状況を見計らい、スケジュール変更させていただきたい。

2. 資料説明及び審議

《人口推計》資料説明...事務局

委員：過去データを用いて現在の人口を推計するなど人口推計の精度を確認してほしい。また、人口推計とフレーム設定の考え方の違いを示してほしい。

事務局：過去データに基づく推計結果は次回部会に示す。

他都市の例を見ても人口推計をそのままフレームにしているところは少ないが、多くの市町村でも推計結果の下方により修正しているようだ。単純推計に開発人口(米原駅周辺など)を加味してフレームを決めたいが、現在目標の45千人は見直す必要があると考えている。

委員：当面の目標が10年後なら、人口のチェックは10年前のもので比較したらよい。

これまで各種施策を進めてきて人口が伸びたかどうか検証するべきだ。

予想より人口減少が早まるのであれば積極的に施策を展開する必要があるといえる。

事務局：極端に言えば人口フレームは45千人のままにすれば、それを裏付ける計画が求められる。

委員：まちの活力は生産年齢人口で決まる。過大な計画は避けるべきである。

しかし、現在は75歳まで現役という考え方もあるので、この人たちを取り込んだ計画も考えられる。

下方修正はどこまでするのか見極めが必要である。

事務局：社会移動趨勢型推計の減少は近年の人口動向を反映しているので覆すことはできないが、積み上げ型の人口推計を近々示したい。

高齢者の割合も前回推計より高くなった。

委員：地域間の差をどうみるか。

事務局：なるべく小さな地区に分けて推計したいと考えているが、データ収集の制約があるので現段階では、どんな形の資料を提供できるか分からない。

委員：若い家族が来てくれるとうれしい。そのような施策を考えるべきだ。

人口の動向は施策の結果であり、まちづくりの指標となる。

《市民アンケート》資料説明...事務局

委員：回収率の高さは市民の関心の高さを示している。

年齢、地区、定住意向などでクロス集計をして分析すれば、何をしていくべきか見えてくる。

「まちづくりに参加したい」という意向が強いので、市民の意向をくみ上げる工夫が必要だと思う。

施策ごとに満足度、重要度の結果は今後のまちづくりの重要な示唆となる。

不満で重要という新エネルギーについて真摯に受け止める必要がある。

交通体系も同様である。

循環型の不満度は低いですが、設問の仕方によって変わってくると思われる。循環型も重要な施策であると思う。

施策 10～13 番は当部会として優先度が高いと判断できそうである。

市の木・花を決めるのは結構であるが、まちづくりの方向性となんらかのリンクさせる必要がある。

委員：定住意向のうち、「市外へ出たい」と「地区」の分析をしてほしい。そういう分析をすることがきめ細かい施策に結びつくと思う。

定住意向と施策の重要度・満足度をクロスさせるとおもしろい結果が得られ、そこに方向性が見えるのではないか。

委員：フェイスシートと定住意向について重要度・満足度のクロスをとって示してほしい。

事務局：分析してお示しする。

委員：伊吹の奥部の特に高齢者は交通体系の整備を望んでいる。また、緊急の時の医療体制についても要望が高い。また、いじめ問題が深刻化するなど子育てに不安が多いので力を注いでほしい。

委員：子育て施策の充実は若者定住に効果的だと思う。

委員：伊吹の奥部へ嫁いで来たときは交通と医療に不安を感じた。

- 委員：重要度・満足度は予想通りの結果である。建設計画と若干のズレはあるが同様である。
交通、防災・防犯の要望が高い。新エネルギーに対するニーズはこれまでの行政の取り組みの結果が現れていると思う。
- 委員：自然をどう生かすかという命題がこの部会に求められていると思う。
新エネルギーや資源に関して市民の認識が高いことを実感した。化石エネルギーに頼らない風力、太陽光、バイオマスなどの導入が必要ではないか。
- 委員：まちづくりへの参加意向が高いが、何をすれば良いかわからないという意識が読み取れる。まちづくりの情報が不足しているので市民は判断できない。
重要度・満足度の結果を見ると行政頼みというイメージがある。
これからは行政ができないことを市民にお願いするというスタンスを明確に示すべきだ。
- 委員：行政に何ができるのか、できないのかは市民と一緒に考える必要がある。この考え方は他の部会でも必要だが、当部会で基本方向を示したい。
アンケートは次回も引き続き検討したい。

《職員 WS》資料説明...事務局

- 委員：グループによって成果のレベルがまちまちである。
回避すべき、退くべきについては、行政がそう感じて市民から見ると不足しているものも多々ある。
弱みを改善することが行政の役割ではないのか。そういうことに言及する必要があるが、書かれていない。
また、例えば攻めるべきことを情報提供としているが内容が分からないので評価しようがない。分庁方式の弱みに対処する方法も書いていない。
- 事務局：いずれのグループも議論を重ねてこの結果を導いた。検討経緯をお示ししても良い。
- 委員：公民協働はすべての政策に関連することであり、当部会だけで議論することではないと思う。WSの結果を見ても明らかである。市民と行政の両方の目で検討すべき項目である。
協働については当部会から他部会へ投げかけたいと思う。
弱みが改善に結びつかないのは、公民協働の考え方が弱いためではないか。
- 委員：退くことに「自分勝手な生活」とあるがこれが協働の基本ではないか。
- 委員：小中学生の教育環境には幼保も入れるべきである。
ドイツでは例えば環境の授業に現場の専門家を先生として招く。このようなやり方を取り入れるべきだ。

コンビニ、スーパーの買い物袋について、市内でもポイント制を導入しているところとしていないところがある。統一すべきだ。

女性の会として自治会をサポートしたい。また教育委員会との連携も図りたいと考えている。

人材育成、職員研修では職場のパワーハラスメント対策なども導入すべきだ。

委員：米原の自治会活動は大都市部と異なり機能しているはずなので行政としてしっかり支援すべきである。地域通貨などもほっておいてはなくなってしまうので、地域の強みとして残したい。

ゴミの行政担当者が学校へ教えに行くのは効果的である。生徒も実感できるし、行政担当者も仕事に誇りを感じることができる。西宮によい事例がある。また、そういうことが風評となれば米原で子どもを育てたいという親が増えるのではないか。

たとえば「うみの子」を復活させてはどうか。

レジ袋はポイント制、有料化の方向で動いている。どちらが良いか検討すべきだ。

委員：職員 WS は行政側から見たものであり、今後は、地域、企業、行政の立場からの見解をミックスして施策に練り上げる必要がある。協働の姿が見えてくるはずである。

委員：風力発電はすべて駄目というのではなく、地域に適応したものは取り入れるという考え方にすべきだ。

委員：エネルギービジョンを策定してはどうか。米原の強みの一つである小水路を生かす工夫など沢山あるはずだ。風力発電と景観の問題、希少生物の問題など方向性が見えてくるのではないか。

委員：目的が協働ではない。

グループで議論が完結しているようなので、グループ間の調整やコーディネートが必要だ。

子どもの権利について滋賀県は偏った政策となっていると思う。他府県では子どもの人権で各セクションが横のつながりに対応している。滋賀県にはそれがない。

委員：子どもの事件が頻発しており親の心配が絶えない。まちとしての取り組みを前面に押し出せば人口増加に効果的ではないか。

11の柱の間をつめることが大切である。

自然環境をどう生かすか、自治をどうするかを話し合いたい。

職員 WS の成果は職員の視線で作られたもの、今後は市民の視線として委員の意見をまとめていきたい。

事務局：今回は各施策について委員の想いを出していただきたい。

3. その他

- 第4回計画部会：12月8日（金） 9:30～
- 第5回計画部会：12月26日（火） 9:30～